

クリーンテック戦略関連ニュースレター

日本、EVで巻き返しへ

政府、自動車メーカーと連携しインフラ整備

米国の電気自動車（EV）メーカー、テスラの急速な事業拡大やトヨタ自動車の時価総額を超えた株価急騰、そして中国や欧州でのEV市場拡大でEVのポテンシャルが注目されていますが、日本政府は日本の自動車メーカーと連携し、日本でのEV拡大を目指しています。

経済産業省は今年3月、政府の「2050年温室効果ガス実質ゼロ宣言」の下、2兆円におよぶ「グリーンイノベーション基金」構想を打ち上げ、産業支援の主要項目にEV、次世代電池などを入れました。

クリーンテクノロジー分野の成長機会を捉えた優れた企業に注目しているクリーンテック戦略では、EVの著しい成長可能性にも注目しています。

日本、「2035年までに新車販売で電動車100%」目指す

菅義偉首相は1月の所信表明演説で、「2035年までに新車販売で電動車100%を実現する」方針を打ち出しました。これにより、日本車メーカーのEV開発が加速し、充電ステーションの拡充やEV用蓄電池の開発が進む見込みです。経済産業省もこの動きを支援しており、各種の補助金を整備しています。また経済産業省は、自動車メーカーと蓄電池や充電インフラの整備について協議を進めています。

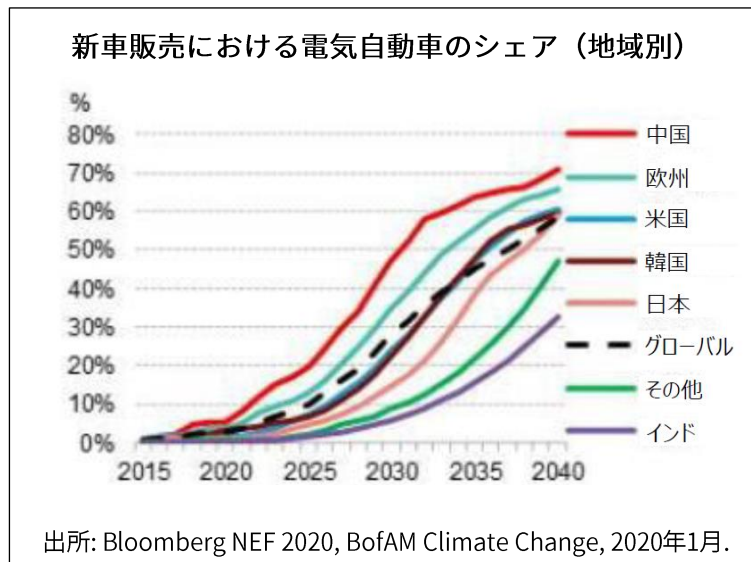


中国や欧米でのEVシフトが加速していますが、日本でもEVの普及が進みそうです。

なお、2035年以降も日本では、ガソリンエンジンと電気モーターを組み合わせたハイブリッド車は利用できるもので、ガソリン車が完全になくなるわけではありません。また、世界的に見ても、日本車メーカーが強いハイブリッド車普及を経済産業省は予想しています。

日本ではこれまでEV普及進まず

三菱自動車と日産自動車は2010年に量産型EVをそれぞれ発売開始し、日本のEV市場の本格的な先陣を切りました。ただ、バッテリーが重く、走行性能も限定的だったこともあり、なかなか普及しませんでした。



また、日本はハイブリッド車やその関連技術で他国の追随を許さず独走してきたため、本格的なEVシフトに踏み切れませんでした。しかし状況は変わりつつあり、今年には日産がSUV型のEV「アリア」を日本で発売する予定です。トヨタ自動車はこれまでハイブリッド車の拡販と燃料電池車（FCV）の開発を進めてきましたが、昨年9月には欧州で高級車「レクサス」のSUV型EVを発売し、今後世界的にEVを大々的に投入する計画です。

また、EVの主要部品である車載用リチウムイオン電池については、パナソニックが主要プレーヤーであり、テスラを大口顧客としています。昨年4月にはトヨタ自動車と車載電池で合併会社を設立し、開発および設備投資を加速しています。

クリーンテック戦略でもEVの著しい成長可能性に注目

クリーンテック戦略では、EVの著しい成長可能性にも注目しています。EVの売上高は2020年に欧州で倍増を上回るペースで伸びており、また、技術革新に伴うコスト低下により、欧州以外の地域で普及が進んでいます。EVの価格はガソリン車に近づきつつあり、新車に占めるEVの割合は、今後急速に上昇するとみられています。

クリーンテック株式戦略のポートフォリオ・マネージャーのアマンダ・オトゥールは、「日本でもガソリン車への規制が強化される見込みで、EV（電気自動車）への追い風となりそうです」と述べています。

クリーンテック戦略では、EV市場拡大の恩恵を受けるEV向けリチウムイオン電池メーカーなどにも注目しています。

関連リンク

[アクサIMのクリーンテック戦略について](#)

[ポートフォリオ・マネージャーが語るクリーンテック戦略への新型コロナウイルスの影響](#)

ディスクレーマー

アクサIMについて

アクサ・インベストメント・マネージャーズ（アクサIM）は責任ある資産運用会社であり、長期的なアクティブ運用を行うことで、お客様、従業員、そして世界の繁栄を支援しています。当社の確信度の高い運用アプローチにより、代替資産クラスおよび伝統的資産クラス全般で最も良好な投資機会と考えられるものを追求しています。2020年12月末時点で約8,580億ユーロの運用資産残高を有しています。

アクサIMは、グリーン、社会、サステナブル市場における先進的な投資家であり、5,550億ユーロにおよぶESG（環境、社会、ガバナンス）統合済みのサステナブルおよびインパクト資産を運用しています。当社は、2050年までに、全運用資産における温室効果ガス排出のネットゼロ達成をコミットしており、株式銘柄選択から企業行動や文化に至る当社の事業にESG原則が組み込まれています。当社の目標は、社会と環境に有意義な変化をもたらしつつ、お客様に真に価値のある責任投資ソリューションをご提供することです。

アクサIMは20カ国27拠点において2,440名余の従業員を擁し、グローバルな事業を展開しています。アクサIMは、世界最大級の保険および資産運用グループであるアクサ・グループの一員です。

投資リスク及び費用について

当社が提供する戦略は、主に有価証券への投資を行いますが、当該有価証券の価格の下落により、投資元本を割り込む恐れがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動によっては投資元本を割り込む恐れがあります。したがって、お客様の投資元本は保証されているものではなく、運用の結果生じた利益及び損失はすべてお客様に帰属します。

また、当社の投資運用業務に係る報酬額およびその他費用は、お客様の運用資産の額や運用戦略（方針）等によって異なりますので、その合計額を表示することはできません。また、運用資産において行う有価証券等の取引に伴う売買手数料等はおお客様の負担となります。

【ご留意事項】

当資料は、アクサ・インベストメント・マネージャーズの情報提供に基づき、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が翻訳・作成した資料です。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券その他の投資商品についての投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。当資料の内容は、作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に記載された運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の情報であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

当資料を事前の了承なく複製または配布等を行わないようにお願いします。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

金融商品取引業者 登録番号: 関東財務局長（金商）第16号

加入協会: 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、日本証券業協会

Ref-20217